

再生

この世の事はすべて借金返済であって、つまる処、
天のバランスです。すべてが「宇宙の大法」の現れとい
うことが解つたら、一切の悩みは消えるはずです。

森信三先生一語千鈞より



人生二度
なし

不尽

父親 人間学 入門

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第86回 2月9日(土)

場所：仁風庵

(実践人の家の会員であればどなたでも参加できます。)

(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

一 新たなる人間学を

宇宙観 人生観 はじめにちよつと申したように「人生二度なし」という人生最深の根本真理は一見まことに分り切ったことで自明のことのように思われ勝ちですが、これを真に身に体するということは、実は容易ならぬことなであります。それには、やはりその背後に、哲学的宗教観というか、宗教的哲学観とどうか、そういう叡智をもつ必要を痛感するのであります。そういうものを、それぞれ自分なりに持たなければ、せつかくの「人生二度なし」という根本真理も、真に人生を生きる原動力とはなりがたいのであります。

ところで、そういう宇宙と人間の関係、また人生の意義について、つまびらかに窮めしめることは、私どもには許されなこともいえます。何となればわたくし共自身は、それぞれ自分の意志と力によって、この地上に生れて来たものではないのであります。結局は大宇宙とどうか、これを内面から申せば、絶大な宇宙生命によつて、この地上にその生を与えられたわけであります。随つてわれわれは、実は人間そのものについてさえ、ほんとうの事は分からないはずであります。いわんや、われわれ人間を始め、一切の天体を生み出し、かつそれら的一切を統一し、その上それらを運行させて、一瞬といえども溜まることのない大宇宙の真相など、われわれ人間の限りある知力では、とても分かるはずがないといえるわけでありませう。

ところが、古来西洋において哲学と呼ばれたきた学問は、ソクラテス以来二千年という永い年月を、このような宇宙人生の根本問題を学問的に究明しようとしてきたのであります。またわれわれ東洋におきましても、宇宙人生の真相に

対しては、これを直観とどうか直観によつて、われわれ人間の根底は、そのまま大宇宙の根本生命につながっており、それと直接に連続しているとかんがえてきたのであります。ですから人びとがそのつもりになつて、それぞれ内省内観の努力を怠らなかつたら—もちろん人によつてそれぞれ趣の相違はあるにしても—全然わからぬということはないと考へて来たのであります。そしてわれわれ東洋の先哲たちは、主としてこのような態度、すなわち西洋のように論理的な分析をするのではなくて、内観の立場から宇宙と人生の真相の一端に、身を以つて触れようとして来たのであります。西洋の哲学者たちのように、必ずしもそれを学問的な体系にしようとはしなかつたのであります。もちろん今日の眼から見れば、こうした東西の考へ方には、それぞれ長所と短所とがあるわけで、どちらか一方でなければならぬとは、わたくしも考へておらぬのであります。

ただわたくしとして申したいことは、われわれ東洋人にとつては、西洋哲学のような鋭利な分析的論理のみでは東洋人の体質にあわず、否、これを理解することさえ実は容易ではなく、ましてそれを生きる原動力とするわけにはゆかないと思ふのであります。

人間学の提唱

そこでわたくしとしては、いわゆる既成宗教のわくに囚われず、さりとてまた、いたずらに西洋哲学の難解にも陥らないで、たくみに両者の間を縫つた所のいわゆる宗教的哲学観を、提供することこそ、現代における最緊要事と思ふのであります。ではそれについて何かふさわしい名称をつけるとしたら、わたくしの考へでは「新たなる人間学」というのが、最も適當ではないかと思われませう。またわたくしには、今日哲学という名称すら、安んじられぬものを感じ

じるのでありまして、「愛知の学」としての哲学の代りに、「全一学」という新たな名称を考ふるに至っているであります。

ですから、ここに言う人間学も、そういう全一的人間学という意味において申しているのであります。したがって、この人間学には人生観や世界観が含蓄されているわけであつて、単に世に処する現実的な智慧のみを意味するのではないのであります。

そして今日、そういう人間こそ、いわゆる「万人の学」として一般に希求されているにも拘わらず、それに応える努力が、これまで学者の側からも、また宗教家の側からも、為られていないように思われてなりません。それというのも結局、学者や宗教家と呼ばれるような人々が、現代という時代の現実を踏まえて、真に民衆の悩みというか、その魂の希求に対する洞察が、何れの側からも、切実に為されていないからだと思ふのであります。

これここに「新たな人間学」の確立の要を説くゆえんなのであります。

神・人間・万有

そこで、そうした立場に立つて、わたくしの考えを端的に申したいと思ひますが、なにぶんにも紙面の都合もあつて十分な説明は出来かねますので、以下箇条書き的に列記いたしますので、みなさん方でそれぞれに噛みしめて、よく味わつて頂くよう念ずる他ありません。(この事に関しては「幻の講和」(第五卷)もしくは「全一学ノート」などをご参照下さい)

① われわれ人間は、自分自身の意志と力によつて、この地上に生れて来たのではなくて、結局、大自然というか、絶大無限な宇宙生命によつて、この地上にその生を与えられたという他ない。

② 随つて又われわれ人間というものは大宇宙意志によつて、この世へいわば派遣されたものともいえよう。

③ われわれ人間ならびに万有は、一たい何ゆえこの世に出現せしめられたのか——それは言わばこの地上の栄のためであり、さらに全宇宙の栄光のためであろう。

④ 何のためにわたくしという一個の人間が、この世に派遣せられたか——自分に課せられたこの世の使命を知るのが、一人びとりの人間各自にその責任があり、それこそ第一の任務である。

⑤ この地上へ派遣せられた自らの使命感の自覚は、人生の二等分線——四十四歳前後——を越えるころであり、しかもそれは、「死」の寸前まで深められねばならぬ。

⑥ 神とは何か——この大宇宙を欺くあらわしている宇宙の根源的生命の絶対無限の統一力ともいえる。

⑦ 無限絶大なる神的「力」は、この大宇宙を超越してそれを成立せしめると同時に、さらに大宇宙の内部にも遍満滲透して到らぬ限もないものである。

⑧ 大宇宙は、巨大なる「調和」と「動的統一」の真理であり、陰陽の調和循環の原理である。

以上は、一応の形而上学的人間学の骨子を羅列したにすぎませんが、今後ともより深く、その真趣をおのおのそれぞれに味得領解して頂きたいと思ひます。やや現実ばなれた話のようですが、これが人間学の地盤をなすと思ふからであります。

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第三章 本物の豊かさを求めて

真の幸せとは何か

新宿の“気”が変わった



新宿駅を中心とした地域の早朝掃除を始めて、間もなく三年を迎えようとしています。毎月一回、雨の中でも合羽を着て続けてきました。道路に踏みつけられたガムを剥がすには雨降りの日が最適です。

この活動の成果が目に見える形として表れるまでには、少なくとも五年はかかる覚悟をして取り組みましたが、嬉しいことに三年を待たずして、明らかにゴミが減り、犯罪も減少してきたという効果を確認することができました。そのことが参加してくださる方々への大いなる応援歌となり、さらなる継続へのエネルギーとなりました。

この活動は、広島県警察本部長でいらした竹花豊様が東京都治安対策副知事として就任されるに当たり、新しい職場である都庁の周囲をきれいにしてお迎えしようとして始めたことでした。竹花様を信奉するかつて部下の方々が広島県から駆けつけられるなどして、二回の大掃除で都庁の周囲は植栽の中まできれいになりました。

二日目の終了後、竹花副知事からの要請で、掃除の場所を歌舞伎町を含めた新宿駅周辺に変更し、西口・東口・歌舞伎町を交互に掃除をし

続けて今日に至りました。

この活動には、遠くは鹿児島県与論島から参加してくださる方、また毎月欠かさず大阪から参加してくださる青年もおられます。午前二時、三時に家を出発して参加してくださる方も少なくありません。竹花副知事はご在任中はほとんどの会に一市民として参加してください、私たちの活動を支えてくださいました。途中から新宿区役所職員の方や、新宿商店街の方々のご参加とご支援があつて、一層勢いが増しました。

新宿駅周辺は、自分の暮らしたや宿場環境、あるいは事業においてもまったく縁のない方が多く、そういう地域の掃除のために、自分の貴重な時間と費用を使って参加してくださる方々に頭が下がります。

掃除をし終えた後、参加された方がたは「新宿の“気”が変わった」と異口同音に述べられます。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 363 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前6時15分～

【第一回】平成5年12月8日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 ハウスマイト



第363回 博多駅早朝清掃
2月8日(木曜日)

満31年目のスタート！
53名参加



第363回、今回もたくさんの精華女子高等学校の生徒さんが参加してくれました。早朝6時30分から7時30分まで登校前の貴重な時間帯に毎月8日はこの場に立ち寄ってくれます。なんて素晴らしい実践教育でしょう！帆足先生の『博多駅早朝清掃は教育の延長！』という言葉が耳に響いてきます。 けさえもん 拝



ラジオ体操



お掃除の歌を合唱



朝会進行役のIさん



サプライズ参加の利会長



福翔のOGの先輩後輩



精華女子高生と掃除道のぼり



利会長と記念撮影



掃除道具の洗いと天日干し

太宰府作務に学ぶ会／戒壇院 2023.7.2 新規スタート

2月4日(日曜日) 毎月第一日曜日(作務の後は座禅会) 第8回／T48回



福岡空港ミリオン清掃／H30,6,20～ T69回

R6,2,3



～古き良き時代の日本再生～

とんぼろ

Instagram



@RAKUNOUJIN1962

=== 心を耕し、生を拓く ===



長目の浜からトンボロを望む

とんぼろ掃除に学ぶ会／薩摩川内市 in長目の浜

第13回 長目の浜海岸清掃 《楽農人／とんぼろ海掃隊》



後援



どうすることもできない漂着物



大型の漂着ごみも多いです



千葉県からSさん二度目の参加



楽農人放浪記 022

こしき島農業再生／鹿児島県薩摩川内市



今年から千葉県船橋のIT企業から継続的に甑島農業再生支援を頂くことになりました。



2024.2.10 古寺圃場 だいぶ畑らしくなってきました。次は水路整備です。



楽農人放浪記 023

こしき島農業再生／鹿児島県薩摩川内市&穎娃町



さつま芋の苗床とこしき茜の栽培予定圃場（右）



種イモの伏せ込みの様子



2024/02/12

鹿児島県南九州市穎娃町のサツマイモ圃場と開聞岳



	3月				4月					5月				
日	2	3	8	9	6	7	8	16	26~5/6	5	8	18	25	
曜	土	日	金	土	土	日	月	火	金	月	日	月	土	土
行事活動名	長目の浜海岸清掃 第14回	戒壇院早期作務 第9回	博多駅早期清掃 第364回	福岡空港ミリオン清掃70回	長目の浜海岸清掃 第15回	戒壇院早期作務 第10回	博多駅早期清掃 第365回	TOYO工場見学		戒壇院早期作務 第11回	博多駅早期清掃 第366回	福岡空港ミリオン清掃72回	長目の浜海岸清掃 第16回	
場所	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	福岡空港周辺	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	北九州市		太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	福岡空港周辺	鹿児島県薩摩川内市	
開始時刻	7時00分	6時30分	6時15分		6時30分	6時30分	6時15分			6時30分	6時15分		6時30分	
運営団体	楽農人 とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	大阪掃除に学ぶ会		太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。その他、活動しているお掃除実践もごさいますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人) 富吉 袈裟右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃隊

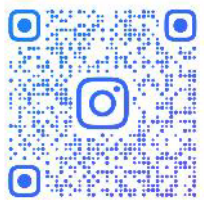
〈合同事務局〉 〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 ≪仁風庵≫

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。

再生三月号

令和六年三月八日発行

(毎月一回八日発行)

創刊

平成二十八年九月一日

発行人

富吉袈裟右衛門